

■ ■ 寄付をいただき、子どもセンターつばさの遊具を更新しました



子どもセンターつばさの園庭にある遊具は、設置から約20年が経過する木製遊具のため、ささくれやひび割れなどの老朽化が進んでいましたが、このたび芦別市名誉市民 小林英一様から市へ寄付があり、その一部を遊具の更新費用に充てさせてい

ただき、滑り台2か所を備えた複合型の遊具を設置しました。秋晴れのやさしい日差しの中で、つばさ保育園園児を代表して年長のゆり組園児が滑り初めを行い、新しくなった遊具で和気あいあいと遊んでいました。

■ ■ 2022年あしべつフォトコンテスト表彰式を行う

今回で5回目となる「星の降る里あしべつフォトコンテスト2022」の表彰式が、10月28日に商工会議所内会場で行われました。

芦別の魅力を写真で伝えるフォトコンテストには、「一般部門」と「インスタ部門」の2部門があり、一般部門には63作品、インスタ部門には

99作品の応募がありました。

市内外から昨年を上回る応募作品が寄せられ、表彰式には入選者を含む12人が出席しました。

入賞作品は、「星の降る里芦別カレンダー2023」に採用され、壁掛けカレンダーと卓上カレンダーとして販売されます。



■ ■ サーフ「SAAB2022」星槎国際高生らが芦別創生を全国に発信



11月12日、第8回^{セイサ アフリカ}SEISA Africa ^{アジア ブリッジ}Asia Bridge 2022がオンライン上で開催され、星槎国際高校芦別学習センターの会場からは、生徒や教員、市職員などが参加しました。

これは、共生社会実現やSDGs達成などを目指して2015年から毎年行われ、同センターでの開催は今回が

初。アフリカやアジア関係者と日本全国約40か所の会場や一般参加者をオンラインで繋いで行われました。

芦別会場のチャンネルでは「地域創生を考える～星槎国際発祥の地芦別からつながる全国の輪～」をテーマに、全国の会場と芦別の創生についての意見交換がされていました。

■ ■ フットサル大会、全道各地から少年少女が3年ぶりに集う

北海道日刊スポーツ新聞社の主催により、11月12日と13日の2日間、「ISHIYA白い恋人杯第28回日刊スポーツ芦別少年フットサルフェスティバル」が開催されました。

3年ぶりとなった同大会は、小学5年生以下の選手で、芦別サッカー少年団のほか、札幌市や旭川市など

道内各地から31チーム341人が集まり開幕しました。

芦別市総合体育館・勤労者体育センター・油谷体育館で8つのブロックに分かれて初日は予選リーグ、2日目は決勝トーナメントが行われ、選手達は、日頃の練習の成果を発揮していました。

